

消費者動向調査 No.108

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 23 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 493 人、回答率 98.6%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	9.1
30代	15.6
40代	22.3
50代	42.4
60代	10.6

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	50.6
妻だけ	12.5
両方	36.9

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ & コンサルティング

[調査結果本文]

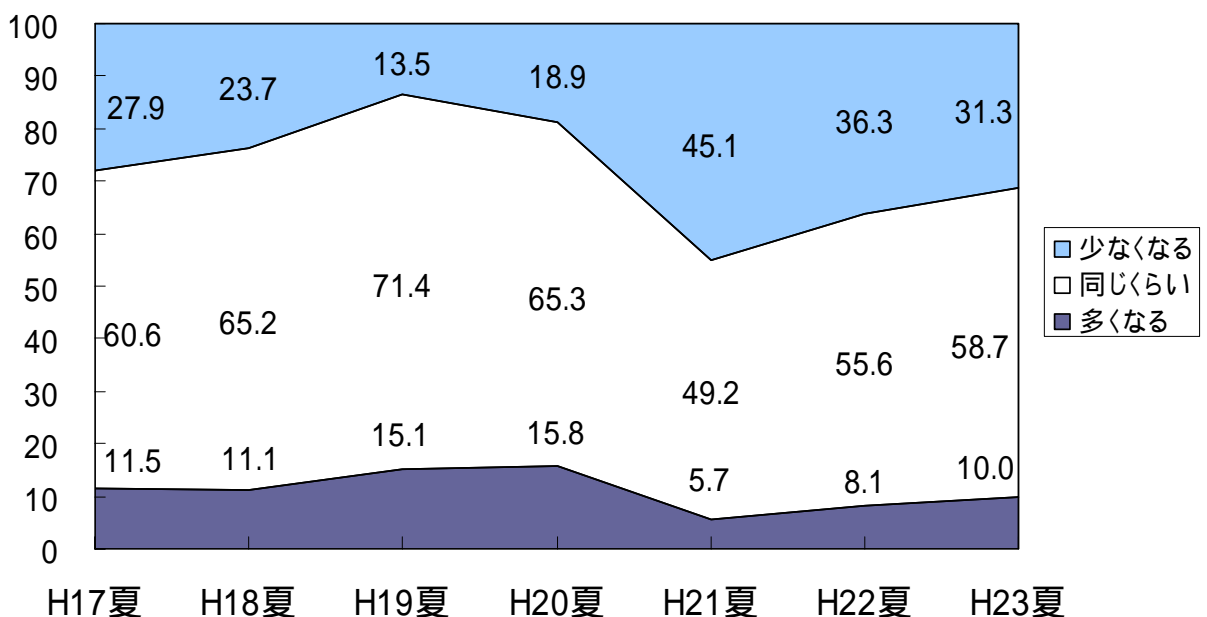
内閣府発表の5月の月例経済報告によると、「景気は、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。」と示しています。今後、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、生産活動が回復し、景気が持ち直していくことが期待されますが、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原子力災害及び原油価格上昇の影響等により、景気が下振れするリスクが懸念されています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、昨年の夏と比較して「多くなる」は 1.9 ポイント増加、「少なくなる」は 5.0 ポイント減少。

夏のボーナスが昨年より「多くなる」は 1.9 ポイント増加し 10.0%、「少なくなる」と予想する割合は 5.0 ポイント減少し 31.3%。1年前の夏よりも、ボーナスが「少なくなる」と予想する割合は減少した。

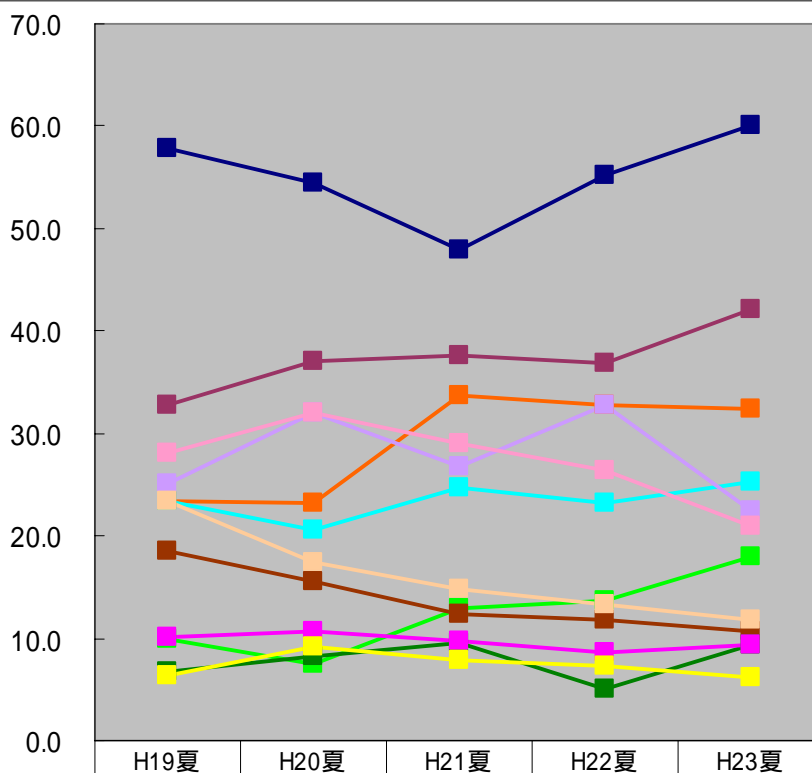
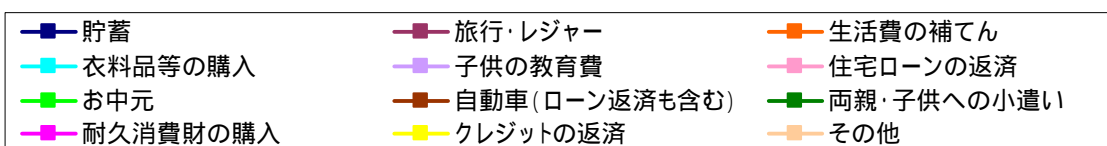
[グラフ 1 :夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか] (単位:%)



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で60.0%。2位は「旅行・レジャー」で42.2%。

夏のボ - ナスの支出予定1位は「貯蓄」で60.0%。これは前年夏の55.3%より4.7ポイント増加した。2位は「旅行・レジャー」の42.2%、3位は「生活費の補てん」の32.3%で3年連続同順位。

[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：%）

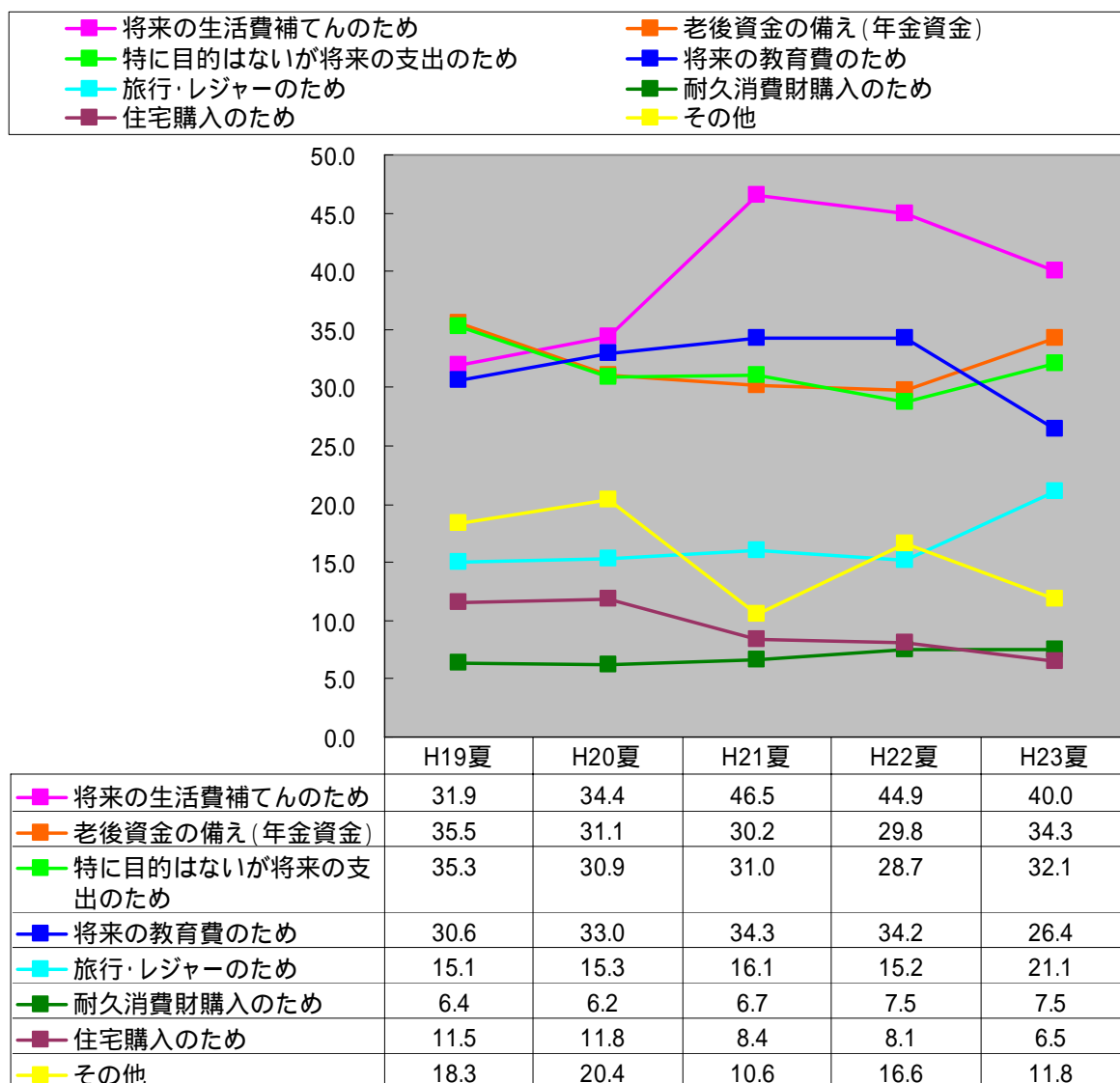


	H19夏	H20夏	H21夏	H22夏	H23夏
■ 貯蓄	57.9	54.4	48.0	55.3	60.0
■ 旅行・レジャー	32.8	37.1	37.6	36.8	42.2
■ 生活費の補てん	23.4	23.3	33.7	32.8	32.3
■ 衣料品等の購入	23.4	20.6	24.7	23.3	25.2
■ 子供の教育費	25.1	32.0	26.7	32.8	22.5
■ 住宅ローンの返済	28.1	32.0	29.0	26.3	20.9
■ お中元	10.0	7.4	12.9	13.6	17.9
■ 自動車(ローン返済も含む)	18.5	15.5	12.4	11.7	10.6
■ 両親・子供への小遣い	6.8	8.2	9.6	5.1	9.3
■ 耐久消費財の購入	10.2	10.7	9.8	8.7	9.3
■ クレジットの返済	6.4	9.1	7.8	7.3	6.1
■ その他	23.4	17.5	14.7	13.2	11.8

ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で40.0%。2位は「老後資金の備え」で34.3%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が昨年の夏に比べ4.9ポイント減少したが40.0%でトップ。次いで「老後資金の備え」は4.5ポイント増加し34.3%と、経済の先行きや雇用に対する不安からか、引続き将来への備えが上位を占める。

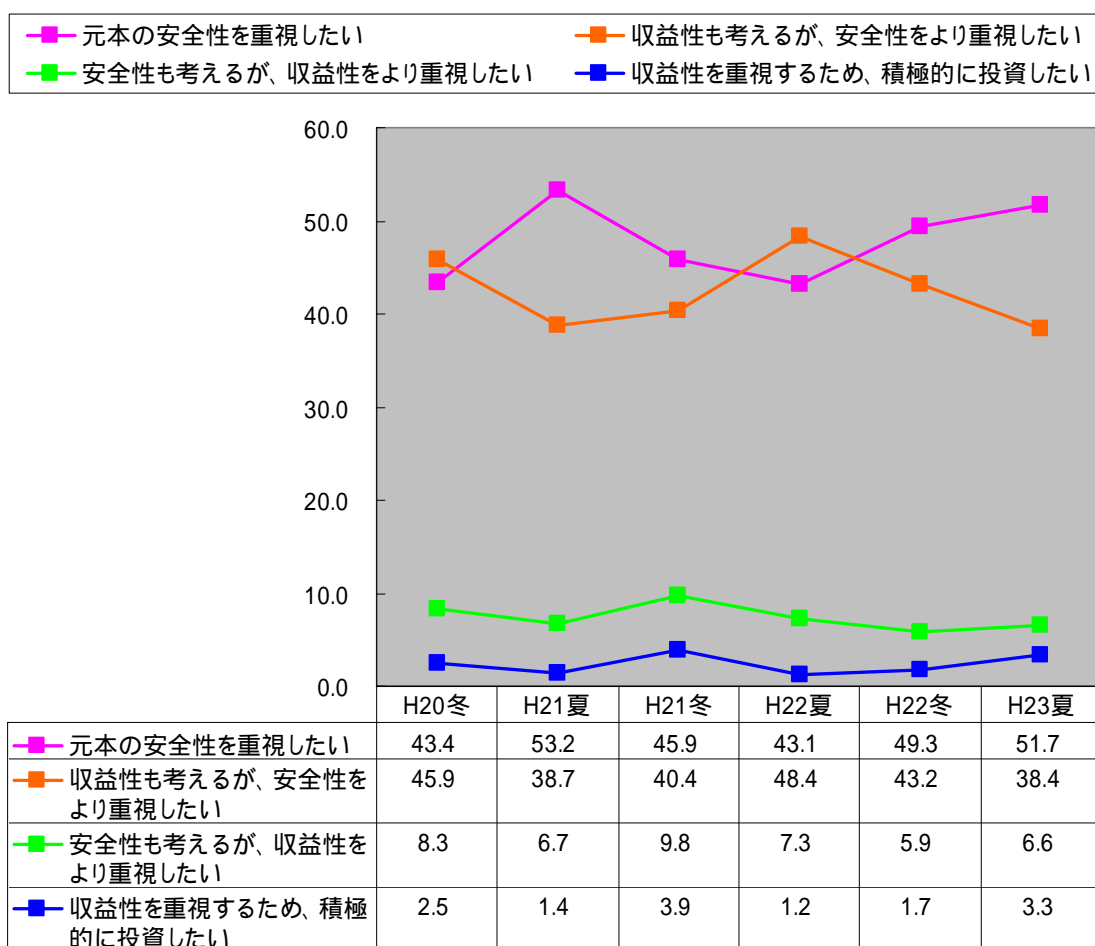
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



夏のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が51.7%で1位。

「元本の安全性を重視したい」がH22年冬から2.4ポイント増加の51.7%で2期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」がH22年冬から4.8ポイント減少して38.4%。約9割以上が安全性を重視している。

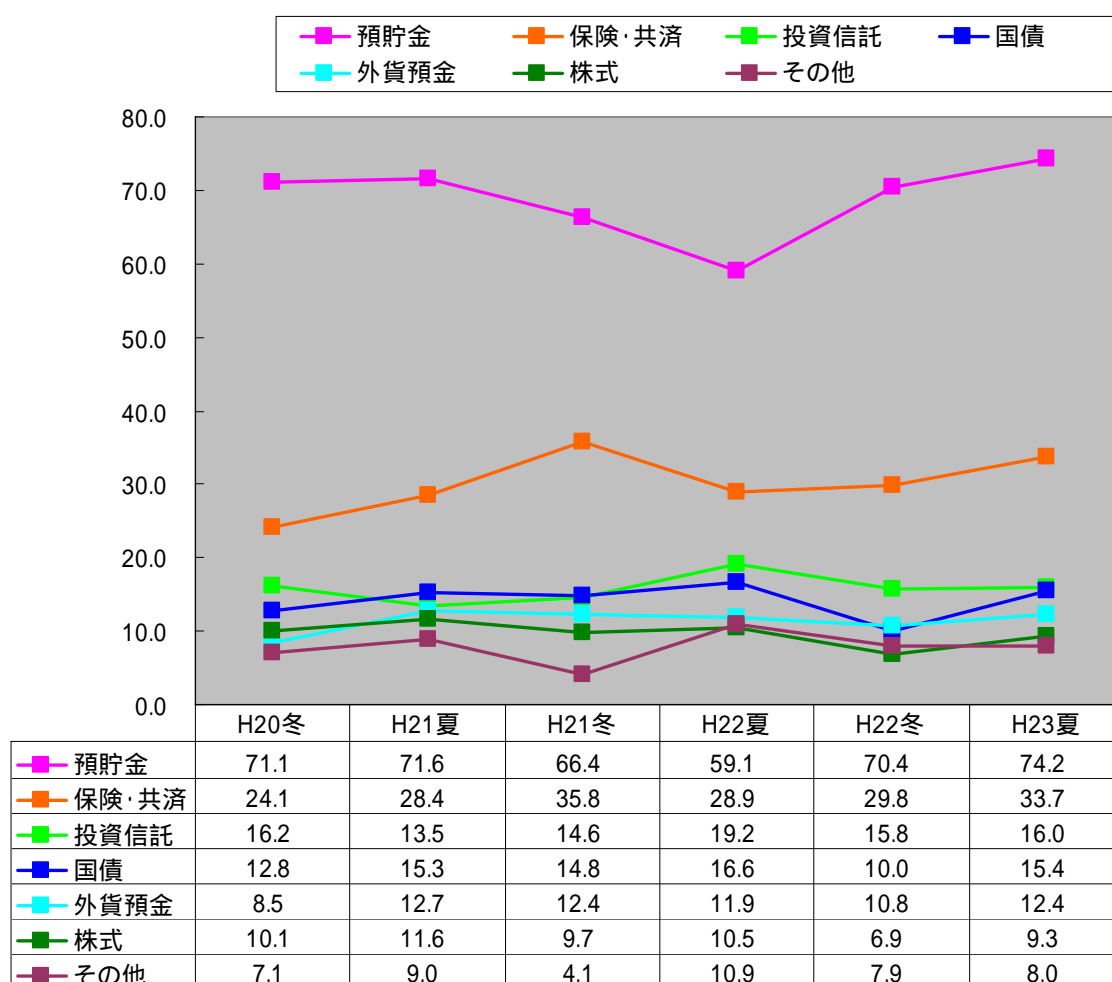
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：%）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で昨年の冬より 3.8 ポイント増加し 74.2%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 74.2%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 33.7%。震災後の安全志向の強まりからか「預貯金」、「保険・共済」、「国債」などの増加率が高くなってきている。「投資信託」が今夏より 0.2 ポイント増加して 16.0%とリスク商品に対しては慎重なスタンスが続いているようである。

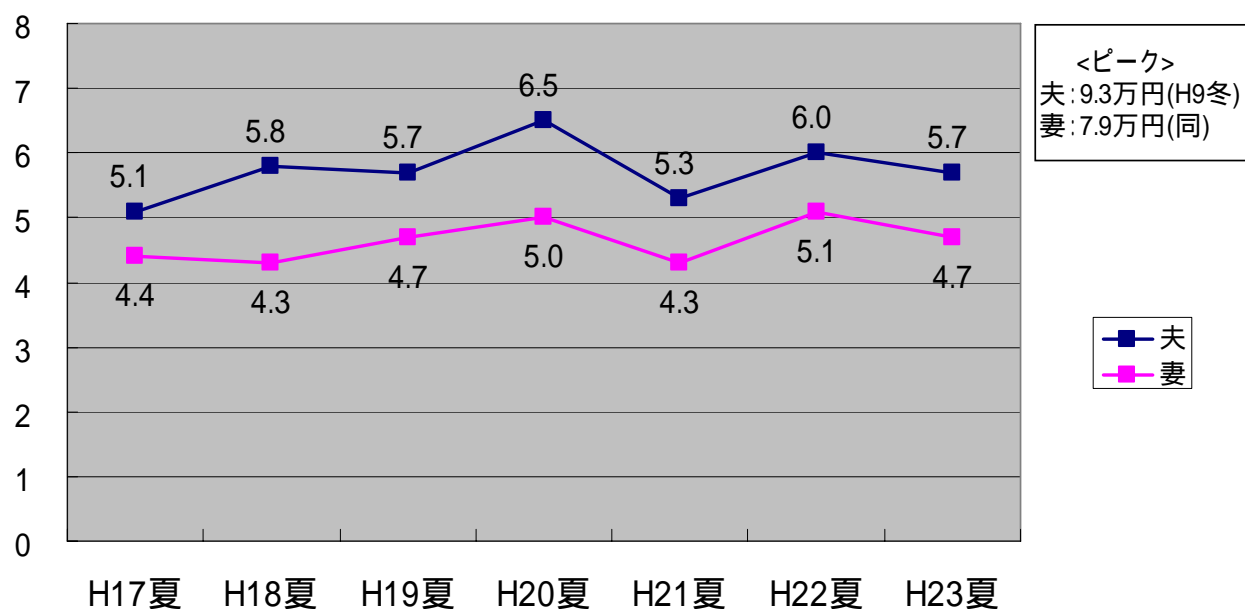
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか (いくつでも)] (単位: %)



夏のボーナス、自由に使える金額は、今年の夏に比べて夫は 3 千円ダウン。妻は 4 千円ダウン。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.7 万円（昨年夏比 0.3 万円）、妻が自由に使える金額は平均 4.7 万円（昨年夏比 0.4 万円）。夏のボーナスが昨年より“少なくなる”との予想は減少したものの、自由に使える金額は節約志向で減少しているようである。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] (単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 大岡 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 香椎 TEL 092-476-3051